

文化市民

「突き抜ける世界都市 京都」の実現に向けて、デジタル化の進展などを見据えた地域自治の推進、全ての人が様々な分野で活躍できる共生社会の実現に市民ぐるみで取り組みます。

また、多彩な才能・人材の集積と“交ざり合い”を促進することで京都の文化の未来を創造し、京都の強みである文化の継承・発展、それに加えて、新たな価値を創出します。

引き続き市民生活の安心安全、地域コミュニティの活性化、文化芸術・スポーツの振興を推進し、市民の皆様一人一人が「居場所」と「出番」を実感しながら日々の暮らしと将来に夢と希望を持ち、確かな豊かさを実感できるまちづくりを進めます。

1 安全対策

(1) 交通安全対策

交通安全対策基本法や京都市交通安全基本条例（平成 25 年制定）及び京都市違法駐車等防止条例（平成 7 年制定）に基づき交通安全の確保及び違法駐車等の防止を図るために、必要な施策を実施しています。

また、京都市交通安全対策会議において、令和 3 年 12 月に「第 11 次京都市交通安全計画」を作成し、交通安全対策の総合的・計画的な推進を図っています。

ア 交通安全啓発事業

京都市交通安全基本条例（平成 25 年制定）に基づき、交通安全知識を普及し、市民の交通安全意識の高揚を図るとともに、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けることにより、交通事故の防止の徹底を図るため、各区の交通安全対策協議会等や京都府警察等と連携を図りながら、各種の交通安全啓発事業を実施しています。また、各区の交通安全対策協議会等に対して、補助金の交付、物品の支給などを行い、地域が行う交通安全啓発事業を支援しています。

イ 違法駐車等防止活動

京都市違法駐車等防止条例（平成 7 年制定）に基づき、都心部を中心に、違法駐車等防止指導員（行財政局サービス事業推進室職員）により、違法駐車等の解消のための指導・啓発活動を行うとともに、京都府警察等の関係行政機関及び業界団体と連携し、「中心市街地重点路線等クリア作戦」を毎月 1 回実施するなど、効果的な指導・啓発活動を行っています。また、各区の交通安全対策協議会等に対して、補助金の交付などを行い、地域が行う違法駐車等の防止活動を支援しています。

(2) 生活安全対策

地域における犯罪及び事故を未然に防止するため、本市、事業者及び市民が果たすべき責務を明らかにするとともに、市民及び観光旅行者等の安全の確保に関する施策を総合的かつ計画的に推進することにより、市民及び観光旅行者等が安心して生活し、又は滞在することができる安全な地域社会の実現を図ることを目的とする、京都市生活安全条例を平成 11 年 4 月に施行しました。

生活安全施策を総合的かつ計画的に推進するため、条例に基づき京都市生活安全（防犯・交通事故防止）基本計画を策定しています。

令和 3 年 8 月には、令和 3 年度から令和 7 年度までの 5 年間の取組方針を示す第 3 次基本計画を策定しました。第 3 次基本計画では、「①犯罪抑止・交通事故防止のための環境づくりの推進」「②地域における「見せる防犯」の拡大～防犯活動の活性化～」「③新たな社会情勢の変化に対応した取組の推進」を 3 つの柱（重点戦略）に掲げています。これらに基づき、安心・安全なまちづくりに向けて、学区の安心安全ネットの継続を応援する事業や、学生防犯ボランティアの活動支援などに取り組んでいます。

(3) 京都市路上喫煙等の禁止等に関する条例の推進

路上喫煙等による身体及び財産への被害の防止や健康への影響の抑制を図り、市民等の安心かつ安全で健康的な生活の確保に寄与するため、平成 19 年 6 月に京都市路上喫煙等の禁止等に関する条例を制定しました。

この条例に基づき、市内全域で屋外の公共の場所における路上喫煙等をなくすため、市民等の意識啓発や喫煙者のマナー向上に取り組むとともに、

「市内中心部」、「京都駅地域」及び「清水・祇園地域」を路上喫煙等対策強化区域に指定し、路上喫煙等監視指導員による巡回指導や過料処分を行っています。

(4) 犯罪被害者支援策の推進

京都市犯罪被害者等支援条例（平成 23 年 4 月施行）に基づき、公益社団法人京都犯罪被害者支援センター内に設置した「京都市犯罪被害者総合相談窓口」を中心として、既存の施策の活用や関係機関との連携はもとより、生活資金の給付や住居の提供、こころのケアなど、犯罪被害者やその御家族・御遺族の視点に立って、被害直後から中長期にわたって支援しています。また、犯罪被害者が置かれた立場に関する理解を深めるため、京都府や京都府警察等と連携しながら、広報啓発等を実施しています。

(5) 京都市暴力団排除条例の推進

京都市暴力団排除条例（平成 24 年 10 月施行）に基づき、京都府警察との密接な連携の下、本市の事務事業からの暴力団排除を徹底すると同時に、暴力団排除の社会的気運が醸成されるよう広報啓発等を実施しています。

(6) 「世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動」の推進

平成 26 年 7 月に京都府警察と締結した協定に基づき、市民生活の一層の安心安全の実現とともに、観光旅行者等の安心安全の向上を目指し、「京都が培ってきた文化力や人と人とのつながりを活かし、誰もが安心安全を実感できるまちづくり」に取り組むため、市民、京都市、京都府警察等の連携により、地域の特性、課題等に応じた行政区単位の犯罪防止等の一層の取組を協働で実施し、京都ならではの地域力・人間力を活かした市民ぐるみの運動を推進しています。

平成 28 年度からは、全区において取組を展開しており、また、全市的には緊急的な対策を講じる必要のある犯罪に対する取組を実施しています。

令和 3 年 3 月には、第 2 期となる新たな協定を締結するとともに、同年 10 月には、第 2 期運動プログラムを策定し、これまでの推進運動を継続発展させた形で取組を進めています。

(7) 京都市客引き行為等の禁止等に関する条例の推進

公共の場所における安心かつ安全な通行を確保することにより、市民及び観光旅行者等にとって安心かつ安全なまちづくりの推進、国際文化観光都市にふさわしいおもてなしを尊重する気運の醸成並びに悠久の歴史の中で培われてきた本市の都市格の維持及び向上に資するため、京都市客引き行為等の禁止等に関する条例を平成 27 年 4 月に施行しました。

この条例に基づき、市内全域で客引き行為等を行うことがないよう事業者の責務を定め、商店会や自治組織とともに客引き行為等に関する啓発等を行うとともに、客引き行為等を全面的に禁止する客引き行為等禁止区域（祇園・河原町区域、東洞院錦小路周辺区域、京都駅北側周辺区域、京都タワービルの敷地の一部、京都あじびる河原町及び河原町 DECK の敷地の一部）では、客引き行為等対策指導員が巡回し、違反者に対する指導、勧告、命令、公表及び過料処分を行っています。

また、公表の範囲の拡大、土地・建物の所有者・管理者等への通知、両罰規定などを盛り込んだ、京都市客引き行為等の禁止等に関する条例の一部を改正する条例を令和 2 年 4 月から施行し、対策を強化して取り組んでいます。

2 消費生活行政の推進

京都市消費生活条例に基づき、本市の消費生活施策を総合的かつ計画的に実施するための計画である「第 3 次京都市消費生活基本計画」（期間：令和 3 年度～令和 7 年度）の下、消費生活相談や消費者教育・啓発など、安心・安全な消費生活の実現に向けた取組及び消費者の自立支援のための各種事業を実施するとともに、人や社会、環境に配慮した消費行動である「エシカル消費」の理念を広く普及促進するなど、「消費者市民社会」の形成に向けた基盤をより強固なものとするための施策を推進しています。

施策の推進に当たっては、国が交付する地方消費者行政強化交付金を活用し、消費者教育・啓発事業や消費生活相談体制の充実を図っています。

(1) 消費者教育・啓発

各種講座・イベント等の開催、出前講座、冊子及び教材の作成・配布、

消費者標語の募集、エシカル消費の普及促進、京都市消費者安全確保地域協議会を通じた見守り活動の推進、情報誌の発行、ホームページ・SNS・メールマーリングリスト等による情報発信等

(2) 消費生活相談

消費生活相談（契約上のトラブルに関する相談、助言、あっせん等）、多重債務相談

(3) その他

家庭用品品質表示法、製品安全関係四法及び消費者安全法による立入調査、食品表示法（品質事項）による立入検査、物価対策等

3 相談事業（消費生活相談以外の相談事業）

(1) 京都市民法律相談

市民の日常生活の中で起こるあらゆる法律問題について、専門的な立場から相談に応じるために、消費生活総合センター及び区役所・支所地域力推進室で、弁護士会に委託して相談事業を実施しています。

(2) 交通事故相談

交通事故による被害者の救済を目的に、示談の方法や賠償問題などに関して相談を受け、問題解決に向けた助言や情報提供を行っています。

(3) 市政一般相談

市政に関する市民からの要望・苦情・意見・問合せ等に応じるとともに、「市民の声」として取りまとめ、公表することにより、市政への反映を図っています。

(4) その他の相談業務等

上記のほか、京都府行政書士会、京都司法書士会、京都民事調停協会、日本不動産鑑定士協会連合会、京都府不動産鑑定士協会及び京都不動産研究協会など、関係団体との共催により、各種の相談会やセミナー等を実施しています。

4 文化芸術事業

暮らしの中に文化芸術がいきいきと息づき、人々の豊かな感性が育まれる

とともに、そこで生まれる活力やにぎわいが、まちの活性化につながることを目指して、文化芸術とまちづくりを一体化させた取組を促進しています。このような取組を通じて、京都を魅力に満ちあふれた世界的な文化芸術都市として創生します。

(1) 「京都文化芸術都市創生計画」の推進

京都を新たな魅力に満ちあふれた世界的な文化芸術都市として創生することを目指して、平成18年4月に施行した「京都文化芸術都市創生条例」に基づき、京都ならではの「文化芸術によるまちづくり」を総合的かつ計画的に進めるための具体的指針として、平成29年3月に「第2期 京都文化芸術都市創生計画」を策定し、文化を基軸に産業、観光、教育や福祉などあらゆる政策分野との融合による新たな価値の創出等に取り組んでいます。

(2) 領彰事業

永年にわたり本市の学術・芸術など文化の向上に多大の功労があった方々を「京都市文化功労者」として表彰しています。また、市民文化の向上のため、活発な芸術活動を開催し、将来を嘱望される新人の方々及び新人育成等に多大の功労があった方々をそれぞれ「京都市芸術新人賞・芸術振興賞」として表彰を行っています。

加えて、文化芸術等に対する市民の関心を高め、その振興に寄与することに功績があった方々を「京都市文化芸術産業観光表彰」(きらめき賞、みらい賞、有功賞)として随時表彰しています。

(3) 若手芸術家等の活動の奨励

「京都市芸術文化特別奨励制度」により、新たな芸術文化の創造と、京都の芸術文化の振興を目的として、若手芸術家等の活動を奨励しています。

(4) 京都文学賞

世界文化自由都市宣言に掲げる「優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市」の実現に向け、宣言から40年を契機に、京都における文学の更なる振興とともに、「文化都市・京都」の発信や京都の歴史と幅広い魅力の再認識、都市格の向上に寄与するため、平成31年4月に京都文学賞を創設し、京都を題材とする未発表の小説を国内外から公募し、審査、表彰し

ます。

(5) 京都映画賞

日本映画発祥の地であり、かつて「東洋のハリウッド」と言われた「映画のまち・京都」が培ってきた映画を支える技術の継承が課題となっている中、京都の映画文化の継承と振興を図るため、令和4年度に京都映画賞を創設し、京都映画賞会員制度の運営と、作品賞、優秀スタッフ賞の顕彰を行っています。

(6) 民間主体の文化芸術事業の支援

民間団体・企業が主体となって開催する文化芸術事業への支援を通じて、文化芸術の振興を図ります。

NAKED GARDEN ONE KYOTOについては、京都の名所及び伝統文化を生かしたアートプロジェクトを展開することで、京都ならではの新体験の機会を提供します。

京都モダン建築祭については、京都に現存する魅力的な建築物に触れていただく機会とすることで、文化遺産の活用、文化観光の促進に努めています。

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭については、京都文化の現在を世界に発信する、新たな文化資源としての国際フェスティバルを目指し、国内外アーティストによる、先駆的・実験的な舞台公演を市内複数個所で開催しています。

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭については、京都の特色のある重要文化財や、寺院、町家などの近代建築物を会場とし、選りすぐりの国内外写真家による展覧会を開催しています。

CURATION≠FAIR Kyotoについては、市内のユニークベニュー（寺院神社等）を舞台に多数のギャラリー・美術商が、古美術・現代工芸・近代洋画・現代美術など、多様な美術作品の展示・販売を行います。

(7) 子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出

一流の芸術家を小・中学校等に派遣し、ワークショップ等を実施する「文化芸術授業（ようこそアーティスト）」と、中学生を対象に、能楽堂等の本格的な舞台で伝統芸能公演を鑑賞する「伝統芸能公演授業（ようこそ和の空間）」

を一体的な取組として実施するなど、「伝統文化・文化芸術の担い手支え手育成」の一環として、子どもたちが「ほんもの」の文化芸術を体験する機会を提供しています。また、子どもや親子等で楽しめるアート情報を掲載する子ども向けアート情報の総合サイト「KYOTO ART BOX for KIDS」を運営し、子どもたちが容易にアートに関する情報にアクセスできる環境を整備しています。

(8) 京都市キャンパス文化パートナーズ制度

大学コンソーシアム京都加盟大学の学生を対象に、京都の多彩な文化芸術に親しみ、文化芸術に対する理解を深め、学生生活をより豊かなものとすることを目的として、文化施設等を利用する際の特別割引や、公演や展覧会等の文化芸術情報の提供を実施しています。

(9) 文化ボランティア制度

文化ボランティア制度は、市民、芸術家、企業等に文化芸術活動に参画いただき、京都のまちと文化芸術が活性化することを目指して、様々な形で文化芸術活動をサポートしていただけるボランティアを広く募集し、ボランティアとサポートを必要とされる方とを結びつける制度です。

コンサートや講演会の受付、展覧会のための資料収集など文化ボランティアの活動機会も増え、多くの方に御活躍いただいています。

(10) 古典の日の取組の推進

源氏物語が記録に現れてから一千年を迎えた平成 20 年 11 月 1 日、源氏物語千年紀記念式典を開催し、「古典に親しみ、古典を日本人の誇りとして後世に伝えていく」ことを主旨とする「古典の日」が宣言されました。

平成 21 年度からは、京都府・京都商工会議所等と共同で「古典の日推進委員会」を設立し、法制化に向けた署名活動など「古典の日」の定着に向けた取組を推進し、平成 24 年 9 月には、「古典の日に関する法律」が公布及び施行されました。このことを契機として、市民が古典に親しんでいただけるよう、フォーラムや朗読コンテストなど様々な取組を実施しています。

(11) 伝統芸能文化創生プロジェクト

伝統芸能に関する保存・継承・普及等の総合的な観点から、伝統芸能を

取り巻く課題の改善に取り組むプロジェクトを実施しています。本市の伝統芸能の活性化を図るとともに、文化庁とも連携し、全国の関係機関とのネットワーク構築を推進することで、日本・京都の伝統芸能文化の創生につなげます。

(12) 文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業

福祉施設等が文化芸術の取組に着手しようとする際の相談事業など、文化芸術による共生社会の実現に向け、社会課題や困難の緩和につながる取組を実施しています。

(13) 若手芸術家等が京都に集い、住み、活動しやすい環境づくりの推進

京都に集い、住み、活動する若手芸術家等にとって魅力的な環境づくりを推進することで、京都への定住・移住を促進し、芸術家の人口増を図ります。

- ・ 「若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり」として、若手芸術家等からの様々な相談に対応するほか、芸術家に適した物件とのマッチング、閉校施設等の活用による制作場所の提供、専門家のネットワークによる発表活動の支援などに取り組みます。
- ・ 「アーティスト・イン・レジデンス連携拠点事業」として、国内外からアーティストを一定期間招聘し、滞在中の活動を支援するアーティスト・イン・レジデンス（以下「AIR」という。）に関わる施設間のネットワークの構築、相談窓口機能を設置する等、国内外からアーティストや AIR の情報が京都に集まる環境を整備します。

また、「京都の若者が世界の多彩な才能と交流する仕組みづくり」として、これまで京都芸術センター等が中心となって取り組んできた AIR を拡大し、狭義の「アーティスト」にとどまらないクリエイティブな人材を京都に呼び込み、地域とつなげることによって、知的交流を促す仕組みをつくるためのモデル事業を実施します。

- ・ 「芸術家の移住・居住等推進モデル事業」として、異なる文化に触ることで新しい芸術表現を生み出そうとする芸術家等の移住等に関するニーズに対応する相談事業を「若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり」の物件マッチングと連動して実施するとともに、京都市内への移住等に関するプロモーションや情報発信を行います。

(14) 創作活動と経済との融合による、若手芸術家等の活動の充実

活動基盤の充実と相乗効果として経済の活性化に資することを目指します。

- ・ 「アート×ビジネス推進事業」として、京都芸術センター内に京都市アート×ビジネス共創拠点を設置（企業7社が入居）。京都芸術センターを利用するアーティストと企業等との交流や、アート×ビジネスのマッチングを目的とした相談会や交流会等を開催し、互いの創造的活動における相乗効果や様々な連携を通じて文化芸術の本質的価値に加え、社会的・経済的価値を高めることを目指します。
- ・ 「アート市場活性化事業」として、まちなかの宿泊施設・商業施設等での展示・販売機会の創出を通じて、若手芸術家支援等につなげます。

また、市内でのアートイベント開催促進に向けたユニークベニュー情報の発信、若手芸術家の国内外アートイベント招聘に向けた工房・スタジオ訪問ツアーの実施、大規模アートフェアと連携した展覧会の開催等により、アート市場の活性化の更なる推進を図ります。

(15) 京都・文化ファンドレイジング戦略推進事業

文化芸術活動を社会全体で支え、持続可能な京都の文化芸術の発展を目指します。

- ・ 京都の文化芸術を担うアーティスト等の活動を社会全体で支援し、持続可能な文化芸術の振興を図るため、Arts Aid KYOTO等の取組を実施（文化芸術分野は令和3年10月～、文化財分野は令和4年9月～実施）。併せて文化芸術への支援の拡大・促進を図るため富裕層の寄付獲得に向けた取組も継続しています。
- ・ 新進作家支援・育成のため、京都市京セラ美術館においてチャリティオークションを実施。ファンドレイジングの促進及びアート市場の活性化等につなげます。
- ・ 寄付受入基盤を構築するため、京都の文化芸術に関する寄付ポータルサイト「Kyoto Art Donation」を運用（令和5年5月～）。単発寄付に加え、毎月クレジット定額決済による継続寄付（メンバーシップ）や遺贈寄付等のメニューを開設、12月には「京都文化寄付月間」を実施する等、京都

の文化芸術に関する寄付文化の醸成を図ります。

(16) 「カルチャープレナー」の創造活動促進事業

カルチャープレナー（文化起業家）が創造する価値の新しい評価軸や社会的インパクトを京都から提唱し、文化芸術に投資する新しい潮流を京都から生み出すため、カルチャープレナーの実践事例のリサーチや、アワード等を実施します。「カルチャープレナーの聖地」としてのプレゼンスを高め、創造的な人々が集積することを目指します。

(17) Discover Traditional Culture of KYOTO～京の伝統文化プランディング～

約 350 万人のインバウンド来訪が見込まれる大阪・関西万博を契機とし、京都の伝統文化の顧客目線での磨き上げとプロモーションを一体的に推進することで、京の伝統文化のブランド化（大阪・関西万博のレガシー）を目指します。

(18) 文化庁との連携の推進

文化庁の京都移転の意義の実現に向け、行政、経済界、文化団体等のオール京都による「文化庁連携プラットフォーム」において、全国のモデルとなるような文化観光コンテンツの造成を目指しています。令和 7 年度は、「京都西山竹あかり」や「寛永行幸四百年祭」など、高付加価値な文化体験や文化鑑賞を通じた観光振興を図り、京都における文化・観光・経済の好循環を加速する取組を実施します。

今後も文化庁との連携の下、日本の地方創生をけん引する取組を展開していきます。

(19) 公立大学法人京都市立芸術大学（京都芸大）

ア 沿革

明治 13 年に京都府画学校として創立され、市立絵画専門学校、市立美術専門学校と変遷を経て、昭和 25 年に京都市立美術大学として開学しました。昭和 44 年 4 月には、美術と音楽を合わせた充実した教育を行い、文化の向上発展に寄与することを目的として、市立美術大学と音楽短期大学を統合し、名称を「京都市立芸術大学」としました。平成 24 年度からは、意思決定が早く、柔軟で自由度が高い大学運営が可能となる「公立大学法人」へ移行し、より魅力ある大学となるよう大学改革を推進し

ています。

＜現在の学部、教育・研究組織＞

美術学部（美術科、デザイン科、工芸科、総合芸術学科）、音楽学部（音楽学科）、大学院美術研究科修士課程、大学院美術研究科博士（後期）課程、大学院音楽研究科修士課程、大学院音楽研究科博士（後期）課程、日本伝統音楽研究センター、芸術資源研究センター、附属図書館、芸術資料館

イ キャンパスの移転整備

平成 25 年 3 月に、大学法人から本市に対し、施設の狭隘化や耐震不足等の課題の解決を図るとともに大学のさらなる発展を期して、大学の下京区崇仁地域への移転整備を希望する要望書が提出されました。

これを受け、本市において検討した結果、大学の発展はもとより、京都全体のまちづくりの進展を図り、京都の都市格と魅力の向上につなげる観点から、大学を崇仁地域へ移転整備させる方針を固め、平成 29 年 3 月に、移転整備のコンセプトや事業規模、事業スケジュール等を盛り込んだ「芸術大学移転整備基本計画」を策定しました。同計画に基づき、基本設計、実施設計を行い、建設工事を実施し、令和 5 年 10 月に移転開校しました。

ウ 移転後の展望

京都市で策定した「中期目標」及び芸術大学で策定した「中期計画」に基づき、移転整備により充実した教育環境を活かした世界最高水準の芸術教育により、世界を視野に社会に貢献する人を育成します。同時に、文化力を活かしたまちづくりを進める京都市の公立の芸術大学として、地域連携や社会貢献を積極的に推進し、教育研究活動の充実と人の育成にもつなげています。これらの取組により、文化芸術の発展及び京都・日本・世界の心豊かで活力ある社会の形成に貢献することを目指しています。

(20) 京都市交響楽団（京響）

昭和 31 年 4 月、日本初の自治体直営オーケストラとして発足しました。令和 2 年 4 月には、オーケストラを都市の政策として位置付ける京都市

交響楽団条例が施行されるとともに、地方公務員法等の改正に伴い、楽団員を公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団に移管しました。

全国で唯一、自治体が設置・運営に責任を持つ楽団として、「定期演奏会」などの自主演奏会や、企業・団体等からの依頼による演奏会のほか、市内各所でのアンサンブル演奏や、ジュニアオーケストラの指導など、クラシック音楽を市民により身近に親しんでもらうための様々な活動も実施しています。

5 文化財保護事業

本市には、世界遺産をはじめ、全国の国宝の 18.9%、重要文化財の 14.2% が所在し、府・市の指定文化財等を含めると 3,200 件以上の文化財があります。

これらの文化財の保存、活用を図るため、本市に権限が委任された記念物の現状変更の許可等と国登録制度の事務をはじめ文化財保護法に基づく指導、市条例による指定、登録、指導や市指定文化財の修理、祇園祭、京都五山送り火の保存、執行に対する補助金の交付などを行っています。

また、埋蔵文化財については、埋蔵文化財包蔵地内での各種土木工事等に伴う法的申請の受理や指導、法的な手続の必要な範囲を示す遺跡地図の作成のほか、発掘調査、発掘実施の有無を判断する試掘調査、詳細分布調査、出土品の鑑査、その他考古資料の整理及び収蔵、大学や博物館等への貸出、区役所と連携した体験事業、市内民間調査団体の実施する発掘調査の監理検査を行っています。

普及啓発については、文化財に関する講座の実施、文化財ブックス・研究紀要の発行や、他都市やメディア等への文化財とそのデータの提供等の活動も行っています。

これら文化財保護法や条例に基づく取組に加え、本市独自で世代を越えて伝えられてきた数多くの有形、無形の文化遺産を市民ぐるみで維持・継承・活用する制度を構築しています。

(1) 「未来を創る京都文化遺産継承プラン～京都市文化財保存活用地域計画～」の推進

地域社会総がかりで文化財を継承していくことを目的に改正された文化

財保護法（平成 31 年 4 月施行）を受け、本市においても文化財の保存と活用の一層の好循環を目指した方針や具体的施策を取りまとめた文化財保存活用地域計画を令和 3 年 7 月に策定しました。

文化財保護法及び京都市文化財保護条例による保護の対象となる「文化財」に限らず、京都の人々の生活、歴史と文化の理解に欠くことができない有形、無形のもの全てを「京都文化遺産」と位置付け、維持継承を図ります。また、市民をはじめ多くの人に京都のまちや暮らしを楽しんでもらうことを通じて、千年の未来に伝えていきます。

(2) “京都を彩る建物や庭園” 制度

京都の歴史や文化を象徴する有形文化遺産を市民ぐるみで残そうという気運を高め、様々な活用を進めることにより、それらの維持・継承を図るため、平成 23 年度、“京都を彩る建物や庭園” 制度を創設し、これまで 616 件を選定、うち特に価値の高いもの 245 件を認定しました。

(3) “京都をつなぐ無形文化遺産” 制度

無形文化遺産の価値を再発見、再認識し、市内外に魅力を発信するとともに、大切に引き継いでいこうという市民的気運を高めるため、平成 25 年度に“京都をつなぐ無形文化遺産” 制度を創設し、これまで「京の食文化」、「京・花街の文化」、「京の地蔵盆」、「京のきもの文化」、「京の菓子文化」、「京の年中行事」の 6 件を選定しました。

(4) 「まち・ひと・こころが織り成す京都遺産」 制度

有形・無形を問わず、京都のあらゆる文化遺産をテーマごとにまとめ、地域性、歴史性、物語性を持った集合体として認定し、その魅力をより分かりやすく伝えていくため、平成 27 年度に「まち・ひと・こころが織り成す京都遺産」制度を創設し、これまで「北野・西陣でつづられ広がる伝統文化」、「山紫水明の千年の都で育まれた庭園文化」、「世代を越えて受け継がれる火の信仰と祭り」、「明治の近代化への歩み」、「千年の都の水の文化」、「京町家とその暮らしの文化」、「いまも息づく平安王朝の雅」、「千年の都を育む山と緑」、「京と大阪をつなぐ港まち・伏見」、「京の商いと祇園祭を支えるまち」の 10 件を認定しました。

国指定文化財本市所在件数

(令和 7.4.1 現在)

区分		全国件数	市内件数	全国対比
国宝	建造物	232 件	43 件	18.5%
	美術工芸品	912 件	173 件	19.0%
	計	1,144 件	216 件	18.9%
重要文化財	建造物	2,588 件	222 件	8.6%
	美術工芸品	10,910 件	1,693 件	15.5%
	計	13,498 件	1,915 件	14.2%
重要無形文化財		(個人) 71 件 105 人 (団体) 31 件 31 団体	9 件 10 人 芸能 5 件 5 人 工芸技術 4 件 5 人	
重要有形民俗文化財		228 件	祇園祭山鉢 29 基、 六波羅蜜寺の庶民信仰資料、 4 件 三宅八幡神社奉納子育て祈願絵馬、 丹後の紡織用具及び製品	
重要無形民俗文化財		337 件	壬生狂言、京都祇園祭の山鉢行事、 6 件 京都の六斎念仏、嵯峨大念仏狂言、 やすらい花、久多の花笠踊	
特別史跡・特別名勝	175 件	15 件	8.6%	
特別天然記念物	3,383 件	117 件	3.5%	

注：重要文化財の件数には、国宝の件数が含まれている。史跡・名勝・天然記念物の件数には、特別史跡・特別名勝・特別天然記念物の件数が含まれている。
地域を定めず指定されたものは、市内件数に含まれない。

京都市・府指定・登録文化財件数

(令和 7.4.1 現在)

区分		京都市		京都府	
		指定	登録	指定	登録
有形文化財	建造物	78 件	27 件	50 件	8 件
	美術工芸品	231 件	38 件	105 件	2 件
無形文化財	0 件	0 件	8 件	0 件	
民俗文化財	9 件	62 件	3 件	2 件	
史跡・名勝・天然記念物	72 件	25 件	6 件	0 件	
計	390 件	152 件	174 件	12 件	

注：府文化財は、本市に所在するものの件数である。

6 主な文化施設

- 京都市京セラ美術館
(京都市美術館) 昭和 8 年 11 月、天皇御即位の大礼を記念して、「大礼記念 京都美術館」として我が国で 2 番目に開設された大規模公立美術館です。ネーミングライツ制度を導入し、令和 2 年 5 月 26 日に「通称 京都市京セラ美術館」としてリニューアルオープンしました。再整備により、本館に美術館の所蔵品（令和 6 年度末 4,481 点）を四季に合わせて展示するコレクションルームを設置し、新館「東山キューブ」に現代アートに対応する展示室を設置しました。また、平成 12 年度に開館した京都市美術館別館は、約 900 m² の展示スペースを備えています。総入館者数 2,072,114 人（令和 6 年度）
- 動物園 明治 36 年 4 月、大正天皇の御成婚を記念して、我が国で 2 番目に開設された動物園であり、101 種 535 点（令和 6 年度末）の動物を飼育展示しています。多様化する環境教育のニーズに対応するとともに、全国の動物園の中で希少動物の繁殖や研究・教育において、主導的な役割を果たしていくため、令和 2 年 2 月に「いのちかがやく京都市動物園構想 2020～いのちをつなぎ、いのちが輝く動物園となるために～」を策定しました。現在、本構想に基づき、サルワールドの再整備を進めています。入園者数 637,180 人（令和 6 年度）
- 元離宮 二条城 1603 年、徳川家康により築城。1867 年、我が国の近代化の幕開けとなる大政奉還が 15 代将軍徳川慶喜により表明されました。昭和 14 年、宮内省（現宮内庁）から本市に下賜されました。全域が史跡の指定を受け、国宝 6 棟、重要文化財 22 棟の文化財建造物と特別名勝に指定される庭園、重要文化財に指定される障壁画 1,016 面を有し、平成 6 年（1994 年）には、世界遺産に登録されました。

現在、二条城を次代へ保存・継承していくために、国宝・二之丸御殿をはじめとする文化財建造物等の本格修理を行

っています。

一口城主募金や MICE のユニークベニューとしての活用も進め、本格修理の財源確保にもつなげています。総入城者数 2,046,329 人（令和 6 年度）

- 歴史資料館 京都の歴史に関する資料の保存と活用を図り、市民の文化の向上及び発展に役立てることを目的として、京都市編さん所を前身に昭和 57（1982）年 11 月に開館しました。資料の収集と調査研究を通じて、成果を展示・閲覧、図書の刊行、歴史講座の開催などにより広く紹介するとともに、メディアや研究者などへの重要文化財を含む資料の貸出や利用許可など管理業務を行っています。また、広く京都の歴史に関する質問や相談を受け付けています。入館者数 24,660 人 質問・相談者数 464 人 歴史講座等参加者数 1,449 人 資料利用許諾等件数 159 件（令和 6 年度）
- ロームシアター京都（京都会館） 昭和 35 年 4 月、文化芸術の創造及び振興による市民の豊かな生活の形成に資すため、また市民に憩いの場を提供することを目的に京都会館として設置。ネーミングライツを導入して再整備を進め、平成 28 年 1 月にリニューアルオープンしました。
再整備後の客席数 メインホール 2,005 席、サウスホール 716 席、ノースホール 約 200 席
- 京都コンサートホール 世界文化自由都市宣言の理念を音楽の分野で具体化する施設として、また平安建都 1200 年記念事業として建設され、平成 7 年に開館しました。
京都市交響楽団の活動拠点であり、また海外の著名なオーケストラの公演など様々な事業を開催しています。
開館から約 30 年が経過し、施設・設備の老朽化等が進んでおり、今後、長寿命化に向けた大規模改修が必要になることから、令和 6 年度は改修に向けた基本設計に着手しました。

客席数 大ホール 1,839 席 小ホール 514 席

- 京都芸術センター 明治初期に設立され、昭和 6 年に改築された当時の面影を今に残している元明倫小学校を活用し、京都における芸術の総合的な振興を図るために、京都芸術センターを平成 12 年 4 月に開設しました。センターでは多様な芸術に関する活動を支援し、情報を広く発信するとともに、国内外の芸術家の交流、芸術家と市民との交流を図ることを目的として、様々な事業を展開しています。
- 無鄰菴 明治・大正時代の元老山県有朋の別荘として、明治 30 年頃に完成しました。庭園は、山県自身が設計監督し、七代目小川治兵衛が作庭したもので、国の名勝に指定されています。洋館は、日露開戦直前の我が国の外交方針を決めた「無鄰菴会議」が開かれたことで有名です。入園者数 61,295 人（令和 6 年度）
- 考古資料館 大正 3 年に本野精吾の設計により西陣織の陳列を目的として建築された「旧西陣織物館」を、昭和 54 年 11 月、京都市の埋蔵文化財の発掘・調査・研究の成果を展示公開して普及啓発を図るための施設に改装して開館し、令和元年度に開館 40 周年を迎えました。皇室、公家、武家、本社・本山級の社寺等に直接関連する遺跡から発見された出土文化財が揃う全国有数の資料を所蔵しており、本市の歴史を旧石器時代から近代まで学ぶことのできる市内唯一の施設です。また、考古資料館の建物は、近代主義建築の先駆的作品として京都市登録文化財になっています。入館者数 23,411 人（令和 6 年度）
- 史跡岩倉具視幽棲旧宅 「維新十傑」に数えられる幕末・明治の政治家、岩倉具視（1825～83）が一時隠れ住んだ住宅です。史跡内には、主屋、附属屋、繫屋といった当初から残る建築物の他に、遺髪碑や具視の遺品類を収蔵するために建設された対岳文庫（国登録有形文化財）などがあります。平成 20 年から 4

箇年をかけて本格的な修理を行い、平成 25 年に財団法人岩倉公旧跡保存会から収蔵品を含めて寄付を受け、その後一般公開を開始しました。入場者数 5,271 人（令和 6 年度）

- ・ 重要文化財　日本三大財閥でもある三井北家（本家）が別邸として建
　　旧 三 井 家　てたもので、明治 13 年（1880）に建築した木屋町別邸（三
　　下 鴨 別 邸　条木屋町）の主屋を大正 14 年（1925）に移築し、玄関棟を
　　増築し完成させたものです。平成 23 年 6 月に重要文化財に
　　指定され、同年 10 月に本市が管理団体となりました。平成
　　24 年から 4 箇年をかけて本格的な修理を行い、平成 28 年
　　10 月 1 日から一般公開を開始しました。入場者数 46,469
　　人（令和 6 年度）

このほか、円山公園音楽堂、地域文化会館（5 館）、久世ふれあいセンター、文化財建造物保存技術研修センター、京北文化遺産センター等があります。

7 区政推進

（1）区役所、区役所支所及び区役所出張所の設置

政令指定都市である本市は、地方自治法第 252 条の 20 に基づき、条例で市域を分けて区を設け、区の事務所として次のとおり設置しています。

区役所 11　　区役所支所 3　　区役所出張所 14

（2）区政の在り方

本市では区政・区役所が一層飛躍するための役割・方向性を示す「共汗で進める 新たな区政創生～京都市における区政の在り方について～」を平成 28 年 3 月に策定し、たゆむことなく様々な区政改革に取り組んでいます。

また、「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」を念頭に、デジタルデバイドに配慮しつつ、区役所業務の効率化を推進する「スマート区役所構想」を令和 3 年 11 月に策定し、市民の利便性向上と業務の効率化に積極的に取り組んでいます。

令和 7 年 4 月には、区役所・支所と局等が組織の垣根を越えて市民や地域の多様な主体のつながり・むすびつきを形成・促進し、ともに政策を磨き上げる結節点となる枠組みとして、地域コミュニティ Hub を設置しま

した。各区役所・支所において、地域ニーズ・課題・資源を積極的に把握し、政策の立案・提言や地域資源を活かしたつながり・支え合いの取組を進めています。

(3) 京都ならではの地域力を活かした協働型まちづくり

「持続可能なまちづくり支援事業予算」

平成 24 年度に「自分たちのまちは自分たちでつくっていく」という地域主体のまちづくりを、区長・担当区長の権限の下、市民に最も身近な区役所・支所がしっかりと支えていく協働の仕組みとして、本事業を創設しました。

令和 6 年度は、区民が自ら企画・実践する「区民提案事業」において 152 件の活動に対して支援したほか、区民と区役所・支所が協力、協働して取り組む事業を含め、本事業全体で 164 事業を実施するなど、各区基本計画の下、本市のあらゆる施策のベースとなる「地域力」の強化に向けた取組を推進しています。

(4) 区役所の総合庁舎化

- ・ 右京区総合庁舎 平成 20 年 2 月しゅん工、3 月供用開始
- ・ 伏見区総合庁舎 平成 21 年 10 月しゅん工、
12 月（保健部は平成 22 年 1 月）供用開始
- ・ 左京区総合庁舎 平成 23 年 4 月しゅん工、5 月供用開始
- ・ 上京区総合庁舎 平成 26 年 12 月しゅん工、27 年 1 月供用開始
- ・ 西京区総合庁舎 令和 5 年 12 月しゅん工、6 年 2 月供用開始

(5) 市民サービスの向上

本市では、マイナンバーカードや電子証明書の更新をはじめとする、マイナンバーカードに係る手続の需要増に対応するため、平日夜間や土・日曜日にも手続が可能である「京都市マイナンバーカードセンター（下京区総合庁舎内）」や市内いずれの区役所・支所でも手続が可能である「マイナンバーカード交付コーナー」において、各種手続を取り扱っています。

マイナンバーカードを活用した取組として、令和 5 年 2 月からマイナポータルを通じたオンラインによる転出届のサービスを開始しています。令和 6 年 10 月には各種証明書交付の電子申請の対象を拡充し、これまでの住

民票の写し及び印鑑登録証明書に加え、戸籍全部・個人事項証明書、戸籍の附票、住民票記載事項証明書及び身分証明書の申請を受け付けています。また、同月からはコンビニ交付サービスの利用促進を図るため、全ての区役所・支所へ同様の機能を提供する行政キオスク端末及び操作支援の案内員を置いており、令和7年度からはこの案内員の役割を、区役所・支所での戸籍や住民基本台帳に関する手続の支援へ拡充しています。

このほか DX の取組として、全ての区役所・支所において、令和5年8月には窓口等の予約や戸籍住民担当窓口の混雑状況の確認を WEB 上で行うことができるサービスを開始、令和6年3月には高齢者、聴覚障害のある方及び外国籍の方等とのコミュニケーションの円滑化を図るため、話した言葉がスクリーンに表示される字幕表示システムを導入、令和6年10月には目的の窓口を簡単なタッチ操作で案内する外国語対応のデジタル庁舎案内表示を設置しました。また、令和7年6月には電話混雑の改善及び24時間365日行政情報が入手可能なシステム構築を目的として、各区役所・支所の代表電話番号等で自動音声応答（IVR）電話サービスを開始しました。

8 地域振興

(1) 地域コミュニティ活性化策の推進

「京都市地域コミュニティ活性化推進条例」に基づき、地域コミュニティサポートセンターにおける自治会・町内会の組織運営等の課題の解決に向けた支援やマンション等の開発に当たり、地域と事業者があらかじめ、自治会・町内会への加入等に関して協議していただく「転入者地域交流支援制度」の運用、チラシ等による啓発、地域活動助成など自治会・町内会をはじめとする地域コミュニティ活性化に総合的に取り組んでいます。

また、令和4年1月に策定した「京都市地域コミュニティ活性化ビジョン」の下、出張スマートフォン講座など、ICTツールの導入支援を進め、地域活動の効率化や負担軽減、地域活動への参加者の裾野の拡大をはじめ、地域コミュニティの活性化に向けた取組を進めています。

(2) 市政協力委員制度

本市では、市政の円滑な運営と行政能率の向上を図るため、昭和 28 年から市政協力委員設置規則を制定して市政協力委員を置いています。

委員は、担当区域ごとに在住者から適当な者を市長が委嘱し、次の事項について市に協力することを任務としており、任期は 1 年となっていきます。

(市政協力委員数 8,100 人（令和 7 年 4 月 1 日現在）)

ア 広報物の配布・回覧

- (ア) 市民しんぶんの配布
- (イ) ポスターの掲示
- (ウ) パンフレット、チラシの回覧

イ 市民の要望の取次ぎ

ウ その他区長が特に必要と認める事務

また、市政への理解を深め、区民の要望や地域の課題を把握するため、市政協力委員の各学区会長と区長との懇談会等を開催しています。

(3) 地縁による団体の認可

地方自治法第 260 条の 2 により、自治会・町内会は、一定の要件を満たしていれば、「地縁による団体」として法人格を取得でき、所有している不動産等の財産を自治会・町内会名義で登記することができます。認可申請手続の相談、申請受付を区役所・支所で行っています。

(4) 集会所新築等補助金の交付

住民の福祉の向上に寄与するため、自治会・町内会等が行う集会所の新築、増築、改築又は修繕に要する経費の一部を補助しています（昭和 46 年度から実施）。また、令和 5 年度から、寄付金の活用が可能となるよう制度を拡充しました。

(5) ちびっこひろばの維持管理

子どもたちの健全な育成と地域コミュニティの形成を図るため、市民自ら土地を確保し、維持管理を行うことを前提として、遊具の助成、維持管理のためのフェンス等の補修を行っています（昭和 42 年度から実施、令和 7 年 5 月末 171 箇所）。

9 北部山間地域の振興

豊かな森林や清らかな水源に抱かれた自然に恵まれ、平安京遷都以来、都の暮らしを支えてきた伝統、文化、温かい地域コミュニティが息づく本市の北部山間地域の暮らしを、将来へと引き継いでいくためには、高齢化や人口減少に歯止めをかける必要があります。

平成 28 年度には、地域と協働して活性化に取り組む「北部山間かがやき隊員」を配置するとともに、都市部に近接し、便利な田舎暮らしができる北部山間地域の「魅力発信」をはじめ、「移住相談」、「地域の取組支援」、「お試し居住体験」、「定着支援」という流れにより、移住を促進するための取組を総合的に進めています。

また、令和 3 年度には、元京北第一小学校を活用したテレワーク拠点「京都里山 SDGs ラボ ことす」を開設するなど、京北地域及び北部山間地域の持続的発展に向け、北部山間かがやき隊員や観光コーディネーター人材とも連携しながら、取組を強化しています。

10 京北地域の活性化

(1) 京都市・京北町合併建設計画

本市では、平成 14 年 11 月に旧京北町から編入合併の申出を受けて「京都市・京北町合併協議会」（法定協議会）を設置し（平成 15 年 10 月）、合併に向けた具体的な協議を経て、平成 17 年 4 月 1 日に合併するに至りました。

協議会では、平成 16 年 8 月に京北地域等についてのまちづくりの基本方針を定める「京都市・京北町合併建設計画（期間：平成 17～令和 7 年度）」を策定し、本市では、当該計画に基づく事業を進めています。

（主な事業）

- ・ 幹線道路等整備（国道 162 号（栗尾トンネル、川東拡幅等）、国道 477 号整備（大布施拡幅等））
- ・ 合併記念の森創設
- ・ 林業活性化対策（杣人の工房事業、北山杉の里整備等）
- ・ 京北地域に隣接する本市の他の周辺地域における地域水道整備、下水処理対策の推進

(2) 京都市過疎地域持続的発展計画

旧京北町が過疎地域自立促進特別措置法に基づく過疎地域であったことから、同法による特例として、合併後も当該地域が過疎地域とみなされ、「京都市過疎地域自立促進計画（平成17～21年度、平成22～27年度、平成28～令和2年度）」を策定し、計画に基づく事業を進めてきました。

令和3年度以降は、新たに施行された「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」に基づいて、「京都市過疎地域持続的発展計画（令和3～8年度）」を策定し、当該計画に基づく事業を進めています。

11 市民活動支援

市民主体のまちづくりを進めるため、NPO法人等の市民活動団体の自主的・自律的な活動を支援しています。

(1) 市民活動総合センターの運営

NPOやボランティア団体等による公益的な市民活動を総合的にサポートするとともに、市民相互の交流や連携を図るための拠点施設として、「市民活動総合センター」を設置しています。センターでは、市民活動団体等に活動の場を提供するとともに、市民活動に関する情報収集・提供・各種相談、市民活動団体等の育成、交流の場の提供、連携・協働事業等を実施し、多様な市民活動の一層の活発化を図っています。

(2) いきいき市民活動センターの運営

市民の公益活動はもとより、サークル活動など市民活動を幅広く支援していくため、市民がいきいきと活動できる場所と機会を提供できる施設として、平成23年4月に「いきいき市民活動センター」を設置しました（市内13箇所）。センターでは、活動場所や機会の提供のほか、市民の公益活動に資する情報の発信、市民活動の活性化を目的としたイベントや市民活動を支援するための講習会等を実施しています。

(3) NPO法人の認証・認定事務

特定非営利活動促進法（NPO法）の改正（平成24年4月1日施行）により、特定非営利活動法人（NPO法人）の認証事務及びNPO法人の税制上の優遇措置に関する認定事務が、指定都市に移譲され、京都市内にのみ事務所

が所在する NPO 法人については、これらの事務を本市が行っています。また、NPO 法人の設立や認定 NPO 法人への移行に向けた、きめ細かな対応により、NPO 法人の活動を側面から支援しています。

(京都市所管の NPO 法人数 823 法人（令和 7 年 6 月 30 日現在）)

12 参加と協働による市政運営

(1) 市民参加推進計画の推進

参加と協働によるまちづくりを進めるため、平成 13 年 12 月に市民参加を総合的に推進する行動計画として「市民参加推進計画」を策定するとともに、平成 15 年 8 月には、市民参加を推進する基本的事項を定めた「市民参加推進条例」を施行しました。

その後、5 年度ごとに市民参加推進計画の策定又は改定を行い、現在は、「第 3 期京都市市民参加推進計画」（令和 3 年 3 月～令和 8 年 3 月）に基づき、取組を進めています。

計画における基本方針 1「市民との未来像・課題の共有」については、ターゲットを意識した SNS 等での情報発信や、市民等との対話の場の設定・場づくりに関する研修を受けた職員を派遣する「市民協働ファシリテーター制度」の活用など、市民と市職員、あるいは市民をはじめ多様な主体同士の対話の推進に取り組んでいます。

基本方針 2「市民の市政への参加の推進」については、パブリック・コメントや附属機関への市民公募委員の登用など、市政運営の様々な過程に市民参加の制度や仕組みを設け、市民の積極的な参加につながるよう、着実な運用に努めるとともに、あらゆる市政分野において市民と京都市の協働の推進に努めています。

基本方針 3「市民のまちづくり活動の活性化」については、市民と本市が共にまちづくりに取り組む“みんなごと”のまちづくり推進事業「まちづくり・お宝バンク」をはじめ、市民や地域の団体、NPO、企業・事業者、大学、寺社などのあらゆる主体との協働を進め、市民のまちづくり活動、地域コミュニティの活性化に取り組んでいます。

(2) 「新しい公共」の推進

「新しい公共」の理念を広く共有し、市民参加型行政をあらゆる分野で推進するため、令和6年4月に全庁横断組織「「新しい公共」推進プロジェクトチーム」を設置し、「新しい公共」を促進する仕組みづくりを検討するワーキンググループや市長や市職員が地域や分野ごとの関係者等と直接対話する「市民対話会議」等を実施しています。令和7年度は、新たに、多様な主体と対話を重ね、関係を築き、協働していく「つなぎ手人材」の育成に取り組むなど、社会総がかりで課題の解決に取り組み、すべての人間に「居場所」と「出番」のある社会を目指す「新しい公共」を推進しています。

13 人権文化の推進

女性、子ども、高齢者、障害のある人、同和問題、外国人・外国籍市民、LGBT等の様々な人権課題の解決には、まちや市民の暮らしの中の人権を大切にし、尊重し合う習慣が根付いた「人権文化」の構築が必要であるとの考えの下、人権尊重の意識の高揚を図り、市民や企業等と共に人権課題の解決に向けた取組を積極的に進めるための事業を展開しています。

(1) 人権文化の構築

ア 京都市人権文化推進計画の推進

人権文化の構築に向けた取組を総合的、効果的に推進するため、平成27年2月に人権施策の基本方針等を示す京都市人権文化推進計画を策定し、人権文化の息づくまちづくりの推進を図っています。計画期間の中間に当たる令和元年度には、計画策定後の社会状況の変化等を踏まえた見直しを行い、令和2年3月に改訂版を策定しました。改訂版の計画期間は令和6年度末までとしていましたが、新型コロナウイルス感染拡大による一時的な社会変容の影響や人権関連の法律施行等の状況を考慮し、計画期間を3年延長（令和9年度末まで）するとともに、令和7年度から9年度までの本市の人権施策を示す「京都市人権文化推進計画（追補版）」を、令和7年4月に策定しました。引き続き、計画に掲げる取組を推進していきます。

イ 人権文化推進会議

本市における人権文化の構築に関する施策を総合的に進めるため、人権文化推進会議を設置し、庁内の連絡、調整を行っています。

ウ 公益財団法人世界人権問題研究センター

人権問題について広く世界的視野に立った総合的な調査・研究を行い、国の内外にわたる人権問題に係る学術・研究に寄与することを目的として、市、府及び商工会議所の出えんにより、平成6年11月に設立されました。

センターでは、5つのプロジェクトチームにおいて、それぞれ「インターネットと人権・情報空間に関する憲法問題」、「共に生きる地域研究の可能性」、「子どもの人権」、「性的マイノリティと人権」、「ビジネスと人権」をテーマとした共同研究が行われているほか、7つの登録チームにおける共同研究や個人研究が行われています。

令和5年10月に京都市立芸術大学新キャンパス内に設置された「学外連携・政策連携スペース」に移転し、これまでの取組に加えて、京都芸大等との連携により、共生社会の実現に資する取組・発信を行っています。

(2) 人権啓発事業

市民一人一人が、自らの人権の大切さと、全ての人々の人権を尊重することの重要性を認識し、そのことにより、日常生活の中での考え方や行動が人権尊重の精神に基づいたものとなることを目的として、①行政が市民に働き掛ける「広報」、②市民との協働による「学習機会の提供」及び③市民の「自主的な取組の支援」の3つの視点から様々な人権啓発事業に取り組んでいます。

<主な人権啓発事業>

- ・ 人権総合情報誌「きょう☆COLOR」の発行やSNSの活用による人権に関する情報発信
- ・ 「人権の花」運動の実施
- ・ 区役所・支所等における啓発活動の実施
- ・ 企業向け人権啓発講座の開催

- ・ 人権啓発活動補助金の交付
- ・ 人権資料展示施設（ツラッティ千本、柳原銀行記念資料館）の運営

14 地域改善対策奨学金等の返還事務

平成 20 年 8 月に提出された「京都市同和行政終結後の行政の在り方総点検委員会」の中間報告を踏まえ、同年 12 月に自立促進援助金制度を廃止して、「京都市地域改善対策奨学金等の返還の債務の取扱いに関する条例」を制定し、奨学金等の返還事務に取り組んでいます。

15 男女共同参画の推進

(1) 「京都市男女共同参画推進条例」に基づく施策の推進

京都市男女共同参画推進条例（平成 15 年 12 月制定）及び「京都市男女共同参画計画」に基づき、本市、市民、事業者の連携・協力の下、「男女平等の理念に立って、男女が、互いに人権を尊重しつつ、協力し合い、その個性と能力を發揮することができる」男女共同参画社会の実現に向け、施策の総合的かつ計画的な推進を図っています。令和 3 年 9 月には、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う働き方・暮らし方の変革等にも対応して、第 5 次計画を策定し、引き続き「DV 対策の強化」、「仕事と家庭、地域活動が調和できる「真のワーク・ライフ・バランス」の推進」に重点的に取り組むとともに、オール京都体制の女性活躍推進組織として発足した「輝く女性応援京都会議」を中心に、京都における女性の活躍推進に取り組んでいます。

(2) 男女共同参画センター（ウィングス京都）の運営

男女共同参画社会の実現のための拠点施設として、平成 6 年 4 月に開設しました。地上 4 階地下 2 階建てで、イベントホール、会議室、セミナー室、図書情報室、ギャラリースペース（平成 29 年 9 月開設）、ビデオシアター、相談室などを備え、多彩な事業に積極的に取り組んでいます。

また、ホームページやメールマガジンのほか、SNS 等を活用し、市民の方々への情報の提供に努めています。

今後の方針としては、男女共同参画や女性活躍に資する機能の充実を図りながら、施設認知度の更なる向上、幅広い世代の利用促進に向け、民間活力も取り入れながら魅力あふれる、より開かれた公共施設としていきたいと考えています。

これに向けては、施設のレイアウトを見直すことで、3階に併設する中央青少年活動センターとの連携も取りやすく、より効率的・効果的な事業展開や相乗効果を発揮していくとともに、隣接する御射山公園や高倉小学校など、多様な地域の主体との連携も目指していきます。

(3) DV 対策の強化

平成23年10月に開設した京都市DV相談支援センターをDV対策の中核的施設として位置付け、児童相談所や保健福祉センターなど様々な関係機関と連携の下、初期の相談から自立支援まで、切れ目のない支援に取り組んでいます。

また、民間シェルターに対する助成や若年層向けのDV予防啓発、DVをはじめとする様々な問題に悩んでおられる男性を対象とした「男性のための相談」など、様々な取組を引き続き実施しDV対策を総合的かつ計画的に推進しています。

(4) 困難な問題を抱える女性への支援の強化

女性が抱える課題が多様化・複雑化する中、令和6年4月の「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の施行を契機として、様々な困難を抱える女性の包括的な支援を行う「京都市女性のための相談支援センター（愛称：みんと）」を開所し、本人の立場に寄り添って相談に応じ、様々な機関と連携して一人一人のニーズに応じた支援を行っています。令和7年度は、特に若年女性について、問題が深刻化する前の早期発見から必要な支援につなぎ、自立して暮らすことができるよう、民間団体と連携し、「アウトリーチ支援」、「居場所の提供」、「自立支援」をセットで行う3年間のモデル事業に着手しています。また、「みんと」と「DV相談支援センター」を合わせた体制強化、民間シェルターへの補助金の拡充により女性支援の充実に取り組んでいます。

(5) 仕事と家庭、地域活動が調和できる「真のワーク・ライフ・バランス」の推進

仕事と家庭生活のバランスを超えて、地域活動が調和することで、人間力を高め、心豊かな充実した人生を送ることができる「真のワーク・ライフ・バランス」の実現を目指し、市民や企業に対する啓発活動、働き方改革の実践例の紹介などによる「見える化」を通じた気運の醸成等の取組を推進しています。

併せて、地域女性活躍推進交付金を活用し、より一層女性の活躍を推進することで、誰もがあらゆる分野で活躍できる社会の実現に向けて取り組んでいます。

16 勤労者福祉対策

勤労者の福祉の向上と経済的安定を図るために、勤労者教育事業（京都労働学校を運営する公益社団法人京都勤労者学園と共に）、近畿労働金庫に資金を預託し勤労者へ低利で融資を行う労働者金融対策事業等の施策を行っています。

また、勤労者情報ホームページ「さわやかわーく～京都市・働く人の情報サイト～」により、労働関係法令や労働相談事例など労働に関する基本的な情報の提供に努めています。

17 スポーツ振興

(1) 市民スポーツ振興計画の策定・推進

本市では、「市民スポーツの振興」を市政の重点施策の一つとして位置付け、平成23年3月に「スポーツの絆が生きるまち推進プラン－京都市市民スポーツ振興計画－」を策定以降、「する」「みる」「支える」のそれぞれの観点から、市民スポーツの振興に取り組んできました。平成27年度には、計画策定後の社会状況の変化等を踏まえた中間見直しを行い、さらに令和3年度には、計画期間を令和7年度まで延長するとともに、国第3期スポーツ基本計画の検討状況やウイズコロナ・ポストコロナを見据えた課題に対応する施策を追加し、取組を推進しています。

次期市民スポーツ振興計画の検討に当たっては、上位計画である次期京

都市総合計画（京都基本構想（仮称））や、国の次期スポーツ基本計画の内容を踏まえた計画とするため、市民スポーツ振興計画の改定時期を国第3期スポーツ基本計画の終期と合わせることとし、令和7年7月に現行の市民スポーツ振興計画の期間を令和8年度までさらに1年延長しています。

(2) 市民スポーツの振興

ア 京都市体育振興会連合会等との連携・協働

イ 市民スポーツフェスティバルの開催

ソフトボール、バレーボール、リレーカーニバル、グラウンド・ゴルフ、ジョギング、ソフトバレーボール、モルック、スクエアボッチャ

ウ 小・中学校夜間校庭開放によるスポーツ活動の推進

小・中学校校庭への夜間照明設備の改修工事及び利用促進

エ 京都市スポーツ推進委員会による市民スポーツの普及・振興

オ 京都マラソンの開催

市民スポーツの振興はもとより、国内外からの入洛客による高い経済波及効果や京都の魅力が広く発信されることによる都市ブランドの更なる向上など、京都にとって大きなメリットが期待される京都マラソンを多くの市民の理解、協力を得ながら開催しています。

第15回大会となる令和7年度「京都マラソン2026」も引き続き安心安全な大会運営に取り組みます。

カ 競技スポーツ強化振興事業の実施

公益財団法人京都市スポーツ協会に加盟する競技団体の組織力の充実及び強化並びに競技力の向上を図るため、支援を行っています。

キ 京都市スポーツ表彰の実施

スポーツに対する市民の関心を高め、競技力の向上及び市民スポーツの振興などに顕著な業績があつた方を表彰しています。

(3) 京都スポーツの殿堂事業

京都ゆかりのトップアスリート等の功績を讃える「京都スポーツの殿堂」を創設しており、令和6年度までに殿堂入り者42名、特別功労者9名、団体特別表彰3団体を表彰しています。

殿堂入りされた方には、これまでの経験や技術を広く市民等に伝える「伝

道事業」を実施いただいているとともに、京都スポーツの殿堂ホール（西京極総合運動公園内）において、ゆかりの品々を展示公開しています。

(4) ワールドマスターズゲームズ 2027 関西

ワールドマスターズゲームズは、国際マスターズゲームズ協会（IMGA）が4年ごとに主宰する、概ね30歳以上のスポーツ愛好者なら誰もが参加できる生涯スポーツの国際総合競技大会です。当初、2021年に関西広域（13府県政令市）を舞台に過去最大規模となる国内外5万人参加を目指に、アジア圏で初めて開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2027年5月に延期となりました。

本市では、開会式及び4競技（陸上競技（トラック＆フィールド）、バドミントン、空手道、スカッシュ）を開催する予定です。

(5) スポーツ施設の整備

ネーミングライツ、PFI等の民間活力の導入を更に促進することで、競技・観戦環境の維持向上に努めます。

(6) 本市のスポーツ施設

- ・ 西京極総合運動公園 かたおかアリーナ京都（京都市体育館）、たけびしスタジアム京都（陸上競技場兼球技場）、東寺ハウジングフィールド西京極（補助競技場）、わかさスタジアム京都（野球場）、京都アクアリーナ（メインプール（5月～9月）、飛び込みプール（5月～9月）、サブプール（25m）、アイススケートリンク（メイン・サブとも11月～3月）、トレーニングルーム、フィットネススタジオ、アーチェリー場）を持つ総合運動公園です。
- ・ 武道センター 我が国最古の演武場であり、国の重要文化財（建築物）に指定されている旧武徳殿をはじめ、近代設備を備えた本館、弓道場、相撲場を設置しています。
- ・ 体育館 かたおかアリーナ京都（京都市体育館）（再掲）、横大路体育館、宝が池公園運動施設体育館（3箇所）
- ・ 地域体育館等 左京地域体育館、中京地域体育館、東山地域体育館、山科地域体育館、下京地域体育館、吉祥院地域体育館、（20箇所）

- 久世地域体育館、右京地域体育館、桂川地域体育館、伏見北堀公園地域体育館、伏見東部地域体育館、醍醐地域体育館、伏見北部地域体育館、市民スポーツ会館、黒田トレーニングホール、京都市こども体育館、京都市北文化会館、京都市障害者教養文化・体育会館、ウィングス京都（スポーツルーム）、京都市障害者スポーツセンター
- ・ 硬式野球場 アイアイ伏見桃山スタジアム（伏見桃山城運動公園野球場）、横大路運動公園野球場、わかさスタジアム京都（再掲）
 - ・ 軟式野球場 岡崎公園野球場、一乗寺公園野球場、東野公園野球場、吉祥院公園野球場、上鳥羽公園野球場、牛ヶ瀬公園野球場、三栖公園野球場、宇治川公園野球場、山科中央公園
 - ・ 野球場兼運動場 岩倉東公園野球場兼運動場、朱雀公園野球場兼運動場、勧修寺公園野球場兼運動場、殿田公園野球場兼運動場、小畑川中央公園野球場兼運動場、伏見公園野球場兼運動場、伏見桃山城運動公園野球場兼運動場、横大路運動公園第1・2・3野球場兼運動場、京北運動公園野球場兼運動場
 - ・ 運動場兼ソフトボール場 桂川緑地久我橋東詰公園運動場兼ソフトボール場（1箇所）
 - ・ テニスコート 宝が池公園運動施設テニスコート、岡崎公園テニスコート、勧修寺公園テニスコート、桂川緑地久我橋東詰公園テニスコート、西院公園テニスコート、小畑川中央公園テニスコート、三栖公園テニスコート、京北運動公園テニスコート、山科中央公園テニスコート
 - ・ 洋弓場 横大路運動公園洋弓場、京都アクアリーナ（再掲）（2箇所）
 - ・ 球技場 宝が池公園運動施設球技場、SBSロジコム吉祥院公園球技場（吉祥院公園球技場）、下鳥羽公園球技場、桂川緑地

久我橋東詰公園第1球技場

- ・ 少年サッカー場 桂川緑地久我橋東詰公園第2球技場
(1箇所)
- ・ フットサル場 大和ハウスパーキング京都市宝が池フットサルコート
(2箇所) (宝が池公園運動施設フットサルコート)、桂川緑地久我橋
東詰公園第3球技場
- ・ アーバンスポーツパーク 宝が池公園運動施設 (アーバンスポーツパークメイン
(1箇所) パーク、ミニパーク)